

千葉大学大学院医学研究院・医学部と国立台湾大学医学院による学生交流協定締結

2020年2月12日に国立台湾大学より倪衍玄（Yen-Hsuan Ni）医学院長、陳石池（Shyr-Chyr Chen）医学院附属病院長、詹長權（Chang-Chuan Chan）公共衛生学院長 他3名が来学し、千葉大学大学院医学研究院・医学部との学生交流協定締結式が行われた。

国立台湾大学は、1945年に創設された学生数約32,000名の研究型大学（前身は1928年に日本統治下に設立された台北帝国大学）で、タイムズ・ハイヤー・エジュケーション社による2019年大学ランキングでは120位に位置し、世界トップクラスの大学の一つである。本学とは、2008年に大学間学術交流の締結以来、短期語学研修や研究交流等、様々な分野で交流を続けているが、昨年医学部にて双方の学生を臨床研修で受入・派遣を行ったこともあり、部局間学生交流協定締結合意に至り署名式を行う運びとなった。

国立台湾大学医学院一行は、医学研究院・医学部来訪に先立ち、徳久剛史学長および山本修一医学部附属病院長への表敬訪問、アカデミック・リンク・センターと医学部附属病院の視察を行った。

医学研究院・医学部での表敬訪問・署名式では、中山俊憲医学研究院長、倪衍玄医学院長の挨拶の後、双方の学部の紹介が行われ、両大学の研究・学生交流の活性化につながる議論が行われた。その後、中山医学研究院長、倪医学院長により、学生交流協定の署名が行われた。今回の訪問および協定締結を機に、臨床研修をはじめ、益々交流が盛んになることが期待される。



協定締結式後の集合写真（前列左：倪衍玄（Yen-Hsuan Ni）医学院長、右：中山俊憲医学研究院長）